

## 社会福祉審議会における主な意見について

- 各種の申請手続きが分かりにくいなど、行政手続、行政システムがユニバーサルデザイン化されていない。
- ソフト面の取組をより充実させるべき。ハードは予算が必要なので順次進めていくとして、車イスの担ぎ方の啓発など、簡単に始められるところから始めるべき。
- 県内のユニバーサルデザイン状況について、徹底した調査をしてほしい。調査が入ると現場は動く。
- ユニバーサルデザインについて学ぶ取組をしているのが、小中学校の“一部”では不十分、滋賀県は遅れている。
- 心のバリアフリー推進が重要。幼稚園、保育園で車イスの方と一緒に過ごしていなければ、どう対応すればよいか分からない。
- 啓発、意識の教育が重要。その一環がハード面の整備である。ハード、ソフトと分けない方がよい。
- 気楽に助け合える社会になるようにしてほしい。
- 県内の駅舎でもバリアフリー化で格差が生じている。ソフト面の取組も重要だがハード面の取組こそが重要である。予算面での義務付けができるようにしてほしい。
- 国スポ・障スポ大会が近づくなか、対応できるバス車両が少なく心配している。
- 年配者、大人だけで指針改定を議論するのではなく、若者の視点を入れるべき。
- ユニバーサルデザインを推進する側の視点ではなく、当事者の視点を大事にしてほしい。